



## フェイクバスターズ “ひぼう中傷” 被害を減らすために

放送日:2020年8月20日 放送時間:30分

対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 情報 公共 総合 道徳

### この番組の良さ



#### ● ネットにはびこる「ひぼう中傷」

インターネット上のひぼう中傷の被害は後を絶ちません。被害者が自ら命を絶ってしまう事案も現実起きています。誰もわからない不特定多数の人から心無い発言を繰り返される苦しみや悲しみ、それについてどのように対処したのか、高校生が受けたひぼう中傷被害の実例が紹介されます。ネット上のひぼう中傷が、子供たち自身にとっても身近な問題であることを認識することができます。

#### ● 被害に遭ってしまったら

ひぼう中傷の被害を未然に防ぐことが一番大事ですが、もしそのような状況に陥ってしまった時、被害を受けた子供が一人で悩み続けないように対処する必要があります。直接の被害者、保護者、学校、コミュニケーションサービスの事業者など、それぞれの立場と行動について、当事者意識を持ち、社会全体で考えていくことの重要性について理解することができます。

### 番組活用のポイント

#### ● 子供たちに身近なSNS

内閣府による青少年のインターネット利用環境実態調査によると、スマートフォンによるインターネットの利用目的として、最も多いのが「コミュニケーション」であり、インターネット利用者のうち小学生42%、中学生83%、高校生では93%が利用しています(令和2年度調査)。児童生徒はひぼう中傷の被害に遭ってしまう危険と隣り合わせの状況です。どのようにひぼう中傷を防ぐか、また、もし被害に遭ってしまった時の対処について、子供たちも具体的に学ぶ必要があります。

#### ● 被害者・加害者にならないために

ひぼう中傷の被害とその対応について知るとともに、加害者にならないようにしなければなりません。多くの加害者は、気軽に、そして大したことはないという意識で行っています。姿は見えなくても、画面の向こうには人がいるのであり、また実名を名乗らずとも、身元を特定されなければ何を言っても良いという考えは許されません。発言には責任が伴い、他者をひぼう中傷することは重大な犯罪行為につながります。子供であっても、このことを正しく認識したうえでインターネットを利用しなければなりません。

#### ● インターネットのコミュニケーション

問題のありそうな投稿を、サービス事業者がシステム的に規制したり削除したりすべきという意見があります。被害を防ぐ仕組みづくりは大変重要ですが、このような仕組みは、サービス事業者が独断で投稿内容を選別できるということでもあります。自分の考えを他者に制限されない「表現の自由」の権利もまた、保護される必要があります。これは非常に難しいテーマですが、子供たちが議論することは大変重要な機会となるでしょう。



執筆者  
特定非営利活動法人みんなのコード  
学校教育支援部講師

永野 直

## 自分自身のSNS利用のあり方について考え直してみよう

対象校種 高校 対象教科 情報 公共

[授業時間 100分] 全体視聴

生徒の思考の流れと活動の流れ	教師の支援と評価
<p>ひぼう中傷が起きた実際の事例について考えてみよう</p> <p>なんでこんなことをするのだろう      かわいそう      元々は本人が悪い</p> <p>自分も書かれた経験がある      名乗らずに言うのは卑怯だ      よく知らないで書くのは無責任</p> <p>番組部分視聴① (開始～22分30秒)</p>  <p>高校生の事例 コロナウイルス感染でひぼう中傷を受ける 発信者情報開示請求 損害賠償請求 傍観せずに被害者を助ける</p> <p>ひぼう中傷はどうすればなくなるだろうか</p> <p>面白がって見ていた。自分もひどいことを言ったことがあるかもしれない。      周りも見ても見ぬふりをしない      処罰、規制や削除を積極的にすべき</p> <p>サービス事業者はどのような対応をしているのだろうか</p> <p>番組部分視聴② (22分30秒～30分00秒)</p>  <p>サービス事業者の対応 ・AIで検知し、目視で確認している ・コメント制限などの機能変更 ・しかし「表現の自由」は尊重したい</p> <p>問題があるものはどんどん削除すればいいのに      削除する基準は？誰が決めるの？</p> <p>AIを使う      膨大な投稿に対してやりきれなくなるだろうか？</p> <p>検閲や言論統制につながったら大変      個人も企業も独善的な制裁は許されないはず</p> <p>裁判所以外は判断できないってこと？      人権を無視した表現の自由を保護する必要あるの？</p> <p>新しい判断基準が必要では      自分で立ち止まる・行動できる判断力を持たなければいけない</p> <p>国・企業も含め、社会全体での議論と対応が必要だ 最も重要なのは各個人が知識とモラル、「自律心」をもって行動するとよい</p> <p>今後の自身のSNS利用のあり方について振り返り、行動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な意見を出せるように雰囲気づくりをする。</li> <li>不法行為やマナー違反と思われる投稿に対して、集団的に非難し、エスカレートしていくケースが多い(本番組の事例は該当しない)。このような、間違った正義感から他者を責める行為の問題点についても考えさせたい。</li> <li>番組の前半部分を視聴する。</li> <li>ひぼう中傷は誰にでも起こる危険があり、被害者の心に大きな傷を残す行為であることを確認する。</li> <li>被害者は周りに相談して泣き寝入りをしていないこと、周りも傍観者とならないことが重要である。</li> <li>ひぼう中傷が刑法改正により厳罰化されることについて紹介する。</li> <li>グループに分かれて、被害を受けたときの本人と周りの対応について確認する。</li> <li>これまでの自分の投稿や行動をふりかえる。</li> <li>どうすればひぼう中傷がなくなるだろうか、グループで話し合う。</li> <li>番組の後半部分を視聴する。</li> <li>被害者と加害者に加え、サービス事業者(プラットフォーム)の対策や社会的責任について考える。</li> <li>グループで、投稿の規制・削除と表現の自由について話し合う。</li> <li>一つの意見・方法に集約させる必要はない。</li> <li>問題のある投稿であっても、事業者が勝手に削除するのは難しいこと、自由や権利の行使には責任が伴うこと、根本的な解決には、各自の情報モラルとデジタルシチズンシップが必要であること、などに気付かせたい。</li> <li>インターネット上のひぼう中傷は当事者間だけの問題ではない。より良い社会に向けて国・企業・学校・家庭・個人が議論を続ける必要がある。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報社会におけるSNS利用のあり方について考え、情報社会に主体的に参画しようとする態度で取り組むことができたか。</li> </ul>